

玉名女子高等学校 「学校関係者評価」 実施要項

平成28年4月

1. 目的

実施している保護者・生徒アンケートや自己評価の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が共通理解を持ち、連携協力により、学校運営の改善に当たることを目的とする。

2. 学校関係者評価委員会の構成

保護者代表及び法人評議員（教員を除く）とする

3. 学校関係者評価の実施

- ① 前年度の自己評価、保護者アンケートの提示を受ける。
- ② 評価に先立ち、学校行事の参観、施設・設備の視察をする。また、教職員や児童生徒との対話等を行い、学校状況についての理解を深める。自己評価の結果を踏まえた、今後の改善方策について評価する。評価に必要な事柄があれば、請求し検証する。
- ② 実施時期 自己評価及び生徒・保護者アンケート（2月実施）
まとめ資料の作成（3月実施）
学校関係者評価委員会（6月頃）

4. 報告

学校関係者評価委員会は、評価の結果を取りまとめ、今後の改善方策について検討し、報告書を作成のうえ校長へ提出する。

5. 結果の活用

学校関係者委員会の作成した報告書により、今後の改善方策を次年度の重点目標の設定に反映し、具体的な取り組みの改善に用いる。また、これにより、教職員の課題に対する共通理解の促進とともに、改善への意識の喚起となるよう活用する。

さらに、改善の必要のない一層促進すべき事項について確認をし、特色ある学校づくりに活かしていくものとする。

28年度 玉名女子高等学校 学校関係者評価（報告）

学校関係者評価委員会

実施日 平成29年5月19日法人評議員会終了後 出席者10名
渡邊典子、松村峰子、安成美恵子、松尾邦徳、高峰武、森高清、
岩下元行、和田要、吉田光範、猿渡哲也

- 28年度参観行事：包丁授与式・創立記念式・体育祭・戴帽式 等
- 自己評価の分析について、資料の配布と説明（教頭）
- 感想・意見や提案（評価者）

評価項目1：基礎学力の向上と多様な生徒に対する進路保障について

- ・ 学力差がある生徒の指導は、大変と思うがよくやっている。
- ・ 自分の将来は自分で決めるということを考えさせるために、学年や全校生徒を対象に、年に数回、進路に関する集会を開き進路担当者からの話をするとともに、進路相談を積極的にすることの大切さを伝える。
- ・ クラスによっては、生徒数も少なく個別指導ができる環境にあるので、個人の理解に合わせた指導を模索すべき。
- ・ 多様な生徒に対する進路保障として、①社会人として最低必要な基礎基本を身につけさせること、②自分の適性をつかませ、進む分野を見つけ出す手助けをする、③職場訪問をし、積極的に就職先開拓に努める、以上3点を総合的に推進することが必要。
- ・ （教師用質問5）に関して、生活や労働に対する意識がまだまだ未熟な生徒たちに、専門的な立場から言葉掛けをし、情報を投げかけ意識を高めることが大切。2年生後半からの進路指導室利用が活発化するようにしてほしい。

評価項目1：基本的生活習慣の確立と安全な生活指導について

- ・ 生徒は、悩み事など友だち間では話しても、親や教師には話さない、相談しないということだろうか。悩みに対して、親身に対応しているという、教師と生徒の感じ方にギャップがありすぎるように見える。
- ・ 毎日きっちりと登校することからすべてが始まるので、資料の中の「数

字で見る玉名女子」に記載されている、出席率 99.2%と 3 年間の皆勤・精勤 70 名の数字が、基本的な生活習慣の確立を表していると感じられる。問題を抱えた生徒に対しては、学校全体で受け入れる体制と本人への個別指導を整える。

- ・（教職員質問 9～11）について、学校近隣の一番近くで見ている者として、学校の指導は大変立派だと実感している。

評価項目 2：魅力ある学校づくりと生徒募集について

- ・魅力ある学校づくりに対する、今年度の努力目標を決めて、教職員が一丸となり取り組まれていると聞き、うれしく思う。参観した包丁授与式などのように、学校内の行事を積極的に外部にアピールすることにより生徒募集につながる。以前よりも近隣中学校からの入学者が減少しているが、原因を究明し、対処を図る必要性を感じる。
- ・外に開かれた学校をどう作るか、学校内部での討議をもっと盛んにしてほしい。これまでもやっているかもしれないが、更に一層高めることも可能と思われる。
- ・教職員や生徒のマイナス評価の高い箇所の改善のために、教職員研修を行い分析すべき。学校に適応できていない生徒のためには、全体で考える必要がある。学内研修会により問題点を共有し、解決法を見出し、同じ方向に向かって、日常適切に指導していく努力が必要と思う。
- ・各項目とも、生徒、保護者の回答が好意的で、満足度の高い答えが大半であったことが、教職員の熱心で熱意ある指導の証と思う。学校一丸となり、生徒指導にあたっていることを嬉しく思う。
- ・校内が明るく女子校らしく変わっていき楽しみである。在校生の内面的な女性らしさを身につけるために、日常作法指導を計画してはいかかがか。
- ・女子高校なので、基本的な礼儀作法を身に付けさせるために、多目的教室の畳の新調など、環境を整備し活用していただきたい。
- ・少子化の中で、入学生徒数の増加は学校の努力の表れと思う。ますます魅力ある学校づくりを願う。中学校や塾へアピールできる魅力作りができれば良い。今、学校の環境整備への努力を感じる。
- ・小中学生が目指す学校づくりを期待する。生徒から中学校後輩へ、保護者からの広報活動もこまめに行っていく。日常の学園生活が、明るく活気あるものにしていくことが大切。
- ・新しい時代の要請を見極め、新基軸となるものを創出していく力は、これからの私学の必要条件である。一方、不易といわれる部分のゆるがな

い信念・信条なども絶対条件である。校長の経営方針の説明通り、「女性の淑徳の涵養を目指す教育」に自信を持って推進していただきたい。学校としての信念・教育方針が確かな場合、学校の「魅力」にも「勢い」にもつながると思う。「数字で見る玉名女子」の内容を、対中学生・保護者・中学校へしっかり伝えるとよい。

評価項目 3：文武両道を目指す、学習と部活動の両立について

- ・ 部活動をしている生徒たちの多くは、寮生活をしているようであるが、放課後小走りで帰寮し、数分後に着替えを終えてまた小走りで部活動に散っていく。練習を積み重ね技を磨いていく様子、目標をしっかり持っていること、規律を保っていることに拍手である。
- ・ 教育は一事が万事、掃除も準備も後片付けも挨拶も、全てが教育。規律秩序が保たれていない学校は、教育の成果も期待できない。文武両道で推進して欲しい。
- ・ 入部してみたい部活動があるから、本校へ入学するという生徒が多いと思う。中には部活動が中心で、授業が疎かになりがちな生徒もいることであろう。部活動の中で学ぶ、礼儀作法、上下関係、集中して最大限努力をする姿勢が、学習に対する意欲向上につながることもなると考えられるのではないか。
- ・ 学校の体制として整える必要はあっても、生徒の自主的判断にまかせたほうが効果を上げるのではないか。

評価項目 4：人権同和教育の推進といじめを許さない心の涵養について

- ・ 学校の人権感覚は、教師一人ひとりの人権感覚に負っているところが大きいと思う。教師の指導は毅然として厳しいものであっても、基底には大きな愛情が必要。成長途中の生徒たちの感情や行動など、揺らいでいてもデリケート。すべての生徒の人格に対して、敬意と愛情を持ってかわらなければならない。教師は、手本となるべき自らの言動が軽薄・愚劣なものにならないよう、常々深く研鑽を重ねることが必要。
- ・ ボランティア活動に積極的に参加していないという結果が出ている。高齢者の数が増加している今日、食物科の生徒たちが年に1回行っている一人暮らし世帯への手作り弁当の配布も、心待ちにしている方々がいらっしやることは、新聞にも取り上げられた。一人住まいでなくても、学校近隣の高齢者のみで困られている家庭へ、2人組位で手伝うようなボ

ランティアの方法は身近にあるように思える。(朝のゴミ出しを玄関前から所定の場所まで運ぶ手伝い等)

- 人の優しい眼差しは、人間の基本的精神の中でも大切なものだと思う。具体的な事例や外部講師を招いての活動も検討されてもいいのでは。
- ボランティアの取り組みに関して、教職員の評価が低いのが気になる。
- 朝の10分読書の評価(生徒質問23)が低いことと、いじめのない環境づくり(生徒質問26)や体罰やハラスメントに気をつけた指導をしている(生徒質問27)の回答に「わからない」や「どちらかといえばそう思わない」がやや高めであることが気になる。いずれも難しい問題ではあるが、子どもたちの小さな心の動きを早めに知ることが大切。
- 「朝の10分読書による集中力」(生徒質問23)については、生徒自身に考えさせたいものである。
- 十分行われていると考えられるが、いじめの実態に気付くように努め、対処していくことが必要。問題を抱えた生徒の居場所と相談できる職員を確保してやることも必要。
- 早朝から、部活動生が学校周辺の清掃活動をしている姿が清々しい気持ちになる。

その他・評議員所感等

- 全体を通して、学校が標榜している「凜として輝く女子高」が随所に表れている。校内で行き交う生徒諸君の礼儀正しさ、明るさ、きちんとした服装などで、一目瞭然。
- 思春期で難しい年頃の女子生徒たちが、秩序を乱さず日々を過ごしていることに感心している。近隣の方々からクレームを受けるような行動はほとんど見かけない。掃除、挨拶、服装、髪型もきちんとしている。あらゆる面からの細やかな指導の賜物と思う。

学校関係者評価を受けて学校としての今後の取り組みについて

(平成 29 年 6 月定例職員会議にて確認)

学校関係者評価委員会において、自己評価のまとめに対して考察をいただいたが、それを受け以下の通り今後の取り組みを考える。

重点努力目標達成のための具体的取り組み

1. 基礎学力の充実と基本的生活習慣の確立

- ・基礎学力に関して、マナトレの実施・活用を徹底する。担任のみでなく全職員で指導助言に務め、さらに学び直しが必要な生徒への放課後学習の実施計画を立てる。
- ・平日の進学課外、土曜日の白梅学習会の効果的な規格・運営にあたる。
- ・進路新聞の発行や、進路に関する集会・ガイダンスを実施する。
- ・新学習指導要領及び、新しい大学入試システムに関する職員研修の実施。
- ・教育相談週間の定着と、教育相談アンケートの効果的な活用を図る。
- ・定期考査時の整容検査と、実施後の改善チェックの徹底。

2. 魅力ある学校づくり

- ・魅力的な観点からの学校行事の見直し・精選。大切に続けてきた本校独自の行事の確認と発信および改革。(創立記念日、戴帽式、針供養 等)
- ・本校生徒の頑張りによる数的魅力「数字でわかる玉名女子」を、効果的にさらに外向きに発信する。生徒が周知する機会を作る。
- ・文化祭とオープンスクールの同時開催。(毎年文化祭)
- ・新しいコースの企画と教育内容の検討(アニメ見直し、食物科の活性化検討)
- ・環境美化と施設の改修、機器の入替え検討(PC、エアコン)、バリアフリー化、洗面室設置。

3. 文武両道を目指す

- ・学習活動と部活動の両立を目指し、心身ともにバランスのとれた生徒の育成に務める。部活動生の成績向上への取り組み等、具体的な対策の検討。
- ・運動部活動生の休養時間、学習時間の確保に務める。
- ・各部活動の素晴らしい成果を学校外へ知らせる。学校を挙げての応援活動の推進。

- ・図書室のギャラリースペースを、部活動実績の展示で魅力的に使用。

4. 人権同和教育の推進と楽しい学校環境づくり

- ・教師一人ひとりの人権感覚の向上のための研修の計画。
- ・生徒の変化に気づき、早期に対応する。システムとしての教育相談をしっかりと活用し、いじめのない環境づくりに務める。
- ・読書による心の涵養のため、朝の読書を徹底する。全職員による読書活動の推進。
- ・読書感想文コンクールへの積極的参加。(読書のすすめ)
- ・ボランティア活動の紹介と、体験発表の計画。
- ・地震復興支援活動の取り組みの校内報告発表会の検討。

今回のアンケートによる自己評価報告を受けて

今回のアンケートについて、教職員が大変熱心に学校運営・本校教育理念を理解した上で授業等に取り組んでいただいているということ、大変嬉しく思う。特に魅力ある学校作りの中で、広報活動の適切さについて評価が向上しているが、今後さらにスクールバス運行ルート拡大や広報活動の充実、入試会場等の増設について経費が必要であれば考慮していきたいと思う。

授業環境作りへの努力・資格検定への取り組みの評価が高くなっており、今後も高評価を維持できるよう継続して取り組んで欲しい。

ボランティア活動の実践については、個々の活動はできているが、学校全体としての取り組みになるよう教職員の努力を望む。